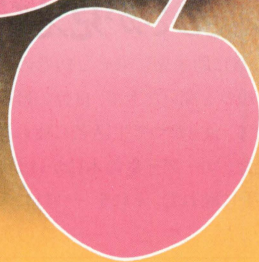




それでも季節はめぐり来る。

桜桃の味

Taste of Cherry



1997年カンヌ国際映画祭パルムドール受賞作品

アッバス・キアロスタミ監督最新作

出演-ホマユン・エルシャディ アブドルホセイン・バゲリ ほか

1997年 イラン映画 カラー 1時間38分 配給-ユーロスペース

桜桃の味

Taste of Cherry

1997年カンヌ国際映画祭パルムドール受賞

監督=アッバス・キアロスタミ

出演=ホマユン・エルシャディ アブドルホセイン・バゲリ ほか

1997年 イラン映画 カラー ヴィスタサイズ(1:1.66) 1時間38分

配給=ユーロスペース



カンヌを感動で 包み込み、最高賞 パルムドールを受賞!

◆もはやキアロスタミのことを“イランの”と形容する必要はないだろう。『桜桃の味』は、50回目を祝っていつになく華やぐ'97年カンヌ国際映画祭に出品され、今村昌平監督の『うなぎ』とともに最高賞パルムドールに輝いた。

◆映画祭中盤までの低調さと、ヴァイオレンスを扱った作品の多さにうんざりしていたカンヌの観客にとって、『桜桃の味』の深遠なテーマと優しい語り口はまさに恵みの雨。乾ききった心に染み入る清らかな水のように、上映会場を感動で包み込んだ。

◆『そして人生はつづく』が“ある視点”部門でロッセリーニ賞を受賞してから5年。キアロスタミはついにカンヌの、世界の映画の頂点に立ったのである。

見つけたのは“生”

◆土ぼこりにまみれて走る1台のレンジローパー。運転する中年の男バディは、助手席に乗せた男たちに次々と奇妙な仕事を依頼する。「明日の朝、この穴の中に横たわっている私の名前を呼んで、もし返事をすれば助け起こし、無言ならば土をかけてくれ」。クルド人の若い兵士も、アフガン人の神学生も、この願いを聞き入れようとはしない。

◆バディはキアロスタミ映画おなじみのジグザグ道を行き来しながら、自殺を手伝う人物を探し



まわる。しかし、いざ目的を果たせそうになって、思いがけず“生”の意味を見出す。『友だちのうちはどこ?』の少年が友だちの家の代わりに友情を手に入れ、『そして人生はつづく』の映画監督が探しに行った兄弟の代わりに人間のたくましい営みを知り、『オリーブの林をぬけて』の青年ホセインが映画に出演して愛を見つけたように。

もう一つの 『そして人生はつづく』

◆キアロスタミが今回選んだテーマは“自殺”。彼はルーマニアの哲学者E.M. シオランの言葉「自殺できるという可能性がなかったら、私はどうに命を断っていただろう」に出会ってこの映画のシノプシスを書き上げた。

◆しかし、自殺やその理由を描くのではない。それは、人生の素晴らしさを称揚するための道具立てのようなもの。主人公バディは死を考えたことで生と向き合い、人生の意味を知る。映画は、自殺しようとしている男を描くことで、生について語ろうとしたのだ。

“サクランボの味を 思い出せば 世界の美しさが見える”

◆バディが最後に助手席に乗せた初老の男バゲリは、彼の頼みを聞いた上で、自分の経験を語って聞かせる。彼もかつて生活苦に疲れ果てて自殺を考えた。ロープを桑の木にかけようとして、ふと実が手に触れた。それを一つ口に入れた。とても甘かった。二つ、三つ……。桑の実が

バゲリを救った。彼の人生を変えた。

◆バゲリは言う。夜明けの空、夕焼けに染まった空を見たくないか? 月や星をもう一度見たくないか? 冷たい泉の水を飲み、その水で顔を洗いたくないか? 自然の四季を思い出して! 夏には夏の、秋には秋の、冬には冬の、春には春の果物ができる。サクランボを味わいたくないか? このバゲリの言葉はバディの胸にどう響いたのだろうか。



刺激的な 映像的冒険

◆いつもながらのシンプルなストーリー。しかし、そこにはキアロスタミならではの深い洞察と世界観が潜んでいる。『友だちのうちはどこ?』に始まった“ジグザグ道3部作”を完結させたキアロスタミは、より普遍的で大きな世界に到達した。この『桜桃の味』には、人の生の息吹きが繊細に塗り込められている。その豊かな人間性、優しいまなざしと温かな肌触りは、観る者の心にじんわりと感動をしみこませる。

◆同時に、飾り気のない一見素朴とも思える語り口には、映像的な冒険がのぞいている。ものがたりの最後、墓に横たわるバディから画面が暗転すると、打って変わって明るいヴィデオ映像になる。青々とした草木が茂る丘の上にセッティングされたカメラの脇ではキアロスタミ本人が指示を出している。

◆キアロスタミはこのヴィデオ映像を“生”を喚起する春」と位置づける。バディが死んだか否かが問題ではなく、生そのものにアプローチした映画だから。この春の情景がすなわち、映画の本当のテーマなのだ。

6月16日(火) ▶ 29日(月) 京都ロードショー!

<上映時間>

6/16(火) ▶ 22(月)	1:30	3:20	昼のみ上映
6/23(火) ▶ 29(月)	1:30	3:20	昼と夜 6:50

■特別鑑賞券発売中■

1,500円

(当日/一般1,800円の処)

劇場窓口、河原町ビブレ、京都朝日シネマ、梅田EST1、チケットぴあ、チケットセゾン、ローソンチケット他にてお求め下さい。

★ KYOTOエキサイティングシネマテーク ★

京都みなみ会館

九条大宮・近鉄東寺駅西へ150m 075(661)3993

- 四条河原町・阪急大宮より市バス207系統九条大宮下車
- 河原町通、百万遍方面より市バス17系統九条大宮下車
- 丸太町通り(熊野神社・円町方面)より市バス202系統九条大宮下車
- 京都駅より近鉄のりかえひと駅、東寺下車(急行停車)

お問合せRCS>075(342)4050